

今や安曇野には美術館・ギャラリーが多数点在し、多くの作家が居住するようになりました。これらは私たちの祖先が育んだ伝統と、芸術家を魅了し、涵養する豊かな自然環境の賜物に違いありません。

本書では、美術の分野や時代に分けて、どんな作家が安曇野に生まれ、または訪れ、どんな作品を遺してきたのか、さらに、現在どんな作品が安曇野市で観ることができ、市内の美術館学芸員等が手分けして紹介します。紙面の都合上、物故作家に限り掲載させていただきました。現在活躍中の市ゆかりの芸術家のみなさまを紹介できず、心苦しく思いますが、今後も市内の美術館等で紹介の機会を設けてまいりますので、こちらもご期待ください。

末筆になりましたが、本書の刊行にあたり取材に応じてくださった所蔵家のみなさまをはじめ、著作権者のみなさま、ご協力いただいた多くのみなさまに厚くお礼申し上げます。

令和三年三月

目次
安曇野風土記Ⅳ 安曇野の美術

はじめに	7	橋本雅邦《鳥》・藤森桂谷《稻穂》	43
第一章 安曇野の狩野派	17	望月硯斎《白鼠》・丸山雲章《秋草》	44
一 家宝の狩野派作品を訪ねて	20	筒井楓所《萩桔梗》・野本宣斎《白百合》	45
狩野梅一《山水図屏風》	20	細田香雨《水仙》・井口香山《茄子》	46
狩野梅二《支那絵屏風》	21	二 有明山神社の作品ピックアップ	47
狩野梅玄《昇龍図》	22	藤森桂谷《連戦連捷之図》	47
狩野梅玄《等々力孫一郎肖像》	23	三 細田香雨 地域で活躍した文人画家	48
狩野梅玄《琴棋書画図屏風》	24	細田香雨《夏中寒泉図》	48
望月雅章《三国志演義図》	26	細田香雨《七草》	49
望月雅章《楠公桜井之離別》	27	細田香雨《朝揮画筆》	50
二 寺社に見る狩野派絵師	28	四 降旗篁岳 文人画の可能性を求めて	51
狩野梅玄《雲龍之図》	28	降旗篁岳《連峰》	51
望月章斎《穂高神社百人一首絵馬》	30	降旗篁岳《竹林明月図》	52
望月硯斎《祈願図》	32	降旗篁岳《耐雪梅花図》	53
望月硯斎 絵馬《武者絵》	33	第三章 安曇野の日本画家	55
第二章 安曇野の文人画	35	一 日本美術院展に出品した作家たち	58
一 有明山神社神楽殿 格天井絵	38	① 日本美術院について	58
天井絵の中の逸品	43	② 日本美術院展に出品した作家たち	58
		保尊良朔	59

- ③ 石井柏亭 179
- ② 木村辰彦
 - 木村辰彦 《妻の像》 178
 - 木村辰彦 《かがみ》 177
 - 木村辰彦 《小娘》 176
 - 木村辰彦 《マンドリン》 175
- ② 中村善策 《水辺》 174
- 中村善策 《安曇野於明盛村》 173
- 中村善策 《北アルプス連峰》 172
- 中村善策 《信濃は初雪》 171
- 中村善策 《水辺》 170
- ① 中村善策 169
- 二 安曇野に集う疎開画家たち 166
- ② 等々力巳吉 165
- 等々力巳吉 《午後ひととき》 164
- 等々力巳吉 《盧溝橋事件其一》 158
- ① 小室孝雄 《謎の作品》 157
- 一 小室孝雄と等々力巳吉 150

- ③ 高橋節郎 264
- ② 高橋節郎
 - 高橋節郎 《漆絵版画》 263
 - 高橋節郎 《漆朝夕衝立》 262
 - 高橋節郎 作品ピックアップ 262
- ① 高橋節郎 241
- 一 高橋節郎 安曇野から世界へ 241
- 二 福原信三と路草 237
- 第九章 工芸と高橋節郎 230
- 一 田淵行男 安曇野のナチュラルリスト 211
- 二 隠岐安弘 《The heat of the earth II》 207
- 山下大五郎 《安曇野豊穣》 204
- 二 戦後の芸術家ピックアップ 203
- 一 戦後の安曇野美術 186
- 第七章 戦後の芸術家 183
- 石井柏亭 《松間の富士》 181
- 石井柏亭 《山河在》 181
- 石井柏亭 《中信酒客》 180

- ① 小川大系 116
- 三 安曇野の彫刻家 116
- 碌山美術館の設立 113
- 生家穂高の「碌山館」 111
- 新宿中村屋の「碌山館」 110
- 碌山美術館の成立 110
- 一 荻原守衛 日本近代彫刻の先覚者 91
- 二 安曇野の彫刻家 87
- のむら清六 《安曇野抄屏風》 85
- 五 安曇野に住んだ日本画家 85
- 四 東山魁夷と安曇野 83
- 高山完 《霊峰富士桜》 82
- 高山完 《林和靖放鶴図》 81
- 高山完 《雷鳥》 80
- 高山完 《海浜所見》 79
- 高山完 中央画壇から安曇野へ 79
- 二 野本文雄 多才な日本画家 77
- 塩原光旦 72
- 山口蒼輪 66
- 小川大系 《中田又重郎》 118
- ② 小林章 119
- ③ 中嶋亀孝 121
- ④ 江崎実 122
- ⑤ 丸山隆 124
- 四 高田博厚の屋外彫刻 126
- 第五章 安曇野の洋画家 131
- 一 望月桂 日本の現代美術へと通じる作家 135
- 望月桂 《こたつ辺》 135
- 望月桂 《機械は大丈夫か》 136
- 望月桂 《実りの秋》 137
- 望月桂 《夏の草原》 138
- 望月桂 《遠眼鏡》 139
- 風間サチコ 《人外交差点》 140
- 二 高橋太一 戦前の美術愛好家の動き 142
- 高橋大東の水彩画 142
- 結城素明 《高橋太一の肖像》 143
- 三 宮芳平 天龍の画家 144
- 第六章 戦争と安曇野の芸術家 147



1 田淵行男 《豊科 拾ヶ堰》

世界かんがい施設遺産に登録される、安曇野を東西に流れる拾ヶ堰の流れは安曇野を豊かな田園地帯に変えました。西から東に流れる河川と逆行する流れをもたらしたこの用水路は、この地の先人たちが知恵と力を合わせて築いたものです。この作品は、1970年代に田淵行男が常念岳に向かって流れる豊科地域の拾ヶ堰を撮影したものです。残雪の模様や堰の流量からは、初夏の光景であることが分かります。現在の整備された様子とは異なり、堤防を草むらが覆っています。人の営みとともに安曇野の風景も移り変わっていきます。(三澤新弥)

結城素明	264
宮坂勝	265
二 山本安曇	266
山本安曇《ヒスマルク像》	271
三 田中徳斎	272
四 安曇野と民藝	275
① 浅川喜美代	277
① 本郷大二	280
おわりに	285
参考文献	289
掲載作品一覧	293
索引	298